

第2章 郷土の民俗行事と人々の暮らし

第1節 ふるさとの年中行事



1 長崎くんち

長崎の町にシャギリの音^ねがひびきだすと、長崎っ子が待ちに待った長崎くんちの幕開^{まくあ}けである。

毎年6月1日になると、踊^{おどり}町のけいこ始め（小屋入^{こやいり}）があり、長崎の町がにぎやかになる。10月7日から3日間くりひろげられる諏訪^{すわ}神社^{しんじや}の秋祭り（長崎くんち）の本番をめざして、毎日^{まいにち}はげしい練習^{れんしゅう}を積み重ねていく。

1634（寛永^{かんえい}11）年に始まった長崎くんちは、当時の長崎奉行^{ぶぎょうし}の支援^{えん}によって、年々盛んになり、伝統行事として市民生活に定着するようになってきた。7年に1回まわってくる踊^{おどり}町は、奉納^{ほうのう}踊^{おどり}を出す

みんなで考えてみよう！

私たちが住む地域には
どのような年中行事が
あるのだろう？



龍踊

（提供：長崎県観光連盟）



オランダ万才

（提供：長崎県観光連盟）

MEMO

小学生のころ龍踊に出た田中君の話

練習はきびしく、だらだらしていると怒られたが、なんとかやりとおした。くんち前日は、緊張と興奮のためなかなか寝つけなかった。当日、大勢の人たちの前でいよいよ演技が始まった。近所の人たち、親せき、同級生など多くの人が自分の演技を見ているのだと思うと、次第に誇らしい気持ちになった。「もってこーい」の聲が今でも耳に残っている。

※ もってこーい——長崎くんちで用いられるかけ声でアンコールの意味。



ことになっている。

傘鉾を先頭に行列を組み、龍船、龍踊、唐人船、オランダ万才など長崎の歴史と伝統を伝える出し物が社前で披露される。これらの奉納踊は、国の重要無形民俗文化財に指定されている。なかでも龍踊は、エキゾチックな雰囲気とダイナミックな動きで全国にその名が知られている。

江戸時代に始まった長崎くんちは、その長い歴史の中で、大人の努力はもちろんのこと、子供の意欲と誇りによって支えられ、今日まで受けつがれてきている。



2 五島のヘトマト

白浜神社の境内で「わぁっ！」という声があがった。奉納相撲がもりあがってきたのである。五島市下崎山町に伝わるヘトマトの始まりである。

ヘトマトは、大漁豊作や無病息災を願い1月の第3日曜日におこなわれる年占いの行事である。昼ごろから、若者が集まって相撲をとったり、晴れ着姿の新婚の女性が大きな酒だるの上に乗る、羽根つきを



ヘトマト

(提供:長崎県観光連盟)

したりする。その後、顔や体にヘグラ(ナベずみ)をぬった若者たちが、荒々しい玉けりや綱引きをおこなう。見物客にもそのヘグラをぬりつけようとする者がおり、みんな笑いながらにげまどう。

MEMO

やがて、長さ3m、重さ350kgほどの大草履^{おおぞうり}をかついだ男たちが若い女性を見つけてまわり、大草履に乗せて、胴^{どう}あげをする。こうしてヘトマトは最高潮^{さいこうちょう}に達する。大草履が、山の神である山城神社^{やましろ}に納められて祭りは終わる。

ヘトマトは、特色ある祭りとして国の重要無形民俗文化財に指定されている。



3 対馬の亀ト^{き ぼく}

旧正月3日、雷神社の祭壇^{いかづち さいだん}に向かって、左手に亀の甲羅^{こうら}を持った岩佐氏の祈りの言葉が続く。長い祈りが終わると、「稲のできぐあい^{いねのできぐあい}は良し。交通事故多し。」などと占いの結果が紙に書かれていく。神社はおごそかな雰囲気^{ふんい き}につつまれている。

対馬市の最南端に位置する厳原町豆酏地区^{さいなんたん いづはら}に伝わる亀トの神事^{き ぼく}のようすである。この神事は、亀の甲羅を火であぶり、できたひび割れの形で1年のできごとを占う祭りである。

亀トは、中国から伝わったといわれ、江戸時代には、対馬藩主の健康や農作物のできぐあいなどを占った。

亀トはかつて、日本各地でおこなわれていたが、現在では、日本でただ一か所、豆酏地区に残っており、国選択^{せんたく}の無形民俗文化財になっている。

亀トは、科学技術の進歩した現在でも地区の大切な年中行事の一つである。



対馬の亀ト

(提供:対馬市教育委員会)

MEMO

4 平戸^{かぐら}神楽

平戸神楽二剣の舞

(提供: 亀岡神社)

10月26日に亀岡神社^{かめおか}でおこなわれるのをはじめ、平戸市内の各神社で演じられている。

神職^{しんしよく}が、真剣^{しんけん}を両手に持ち、あるいは口にくわえて前転、後転、側転などの回転技^{かいてんわざ}をおこなう「二剣の舞^{にけんまい}」は、平戸神楽^{かぐら}のクライマックスである。

現在は国の重要無形民俗文化財に指定されており、



5 国見町の鳥居くぐり



鳥居くぐり

(提供: 雲仙市)

女性が息をはずませながら鳥居の中をくぐり抜けようとしている。

この鳥居は雲仙市^{くにかみ}国見町の淡島神社^{あわしま}に設けられた縦横30cmの小さなものである。うまくくぐり抜けることができると、安産や健康

な子供の誕生など、女性の様々な願いがかなえられると信じられている。この行事は「桜祭り」の4月3日ごろおこなわれる。

千綿人形浄瑠璃
東彼杵町





6 風流踊 (ユネスコ無形文化遺産)

2022(令和4)年、ユネスコ政府間委員会は、日本各地に古くから伝わる民俗芸能「風流踊」を無形文化遺産に登録することを決定した。長崎県内では、「平戸のジャンガラ」,「大村の沖田踊・黒丸踊」,「対馬の盆踊」の3件が登録されている。



A 対馬の盆踊り (提供:対馬市教育委員会)



B 平戸のジャンガラ (提供:平戸市)



国・県指定(選択)の無形民俗文化財(鳥居くぐりを除く)



C 沖田踊 (提供:大村市教育委員会)



D 黒丸踊 (提供:大村市教育委員会)

MEMO